様式 2

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	38・光村	第 1～3 学年	書写 735	中学書写一・二・三年
取扱内容（学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　硬筆 第 1 学年では、字形の整え方に注意して書いたり、配列を考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書や行書で書く、第 2 学年では、行書の特徴に気を付けて書いたり、楷書と行書の使い分けを考えたりする活動を通して、行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く、第 3 学年では、身の回りの文字を調べて掲示物を書いたり、筆記用具を選択して作品を書いたりする活動を通して、身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くなど、目標を達成できるようになっている。 ○　毛筆 第 1 学年では、点画の変化や連続に注意して書いたり、楷書と行書の筆使いの違いに気を付けて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書く、第 2 学年では、筆使いに気を付けて書いたり、楷書との違いを考えて書いたりする活動を通して、行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く、第 3 学年では、書体を工夫して掲示物を書いたり、卒業記念作品を書いたりする活動を通して、身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くなど、目標を達成できるようになっている。 ○　硬筆と毛筆の関連 第 1 学年では、毛筆の学習の後に、「楷書と仮名のまとめ」において、硬筆による文学作品の冒頭を書く活動、第 2 学年では、毛筆の学習の後に、「行書と仮名のまとめ」において、硬筆による古典の文学作品の一部を書く活動、第 3 学年では、これまでの毛筆の学習を生かして、「学習したことを生かして書こう」において、効果的に卒業記念作品を書く活動が取り上げられている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 第 1 学年では、「楷書と仮名のまとめ」において、植物の観察日記の一部を書くなど、第 2 学年では、「楷書と行書の使い分け」において、音楽祭を知らせるポスターを書くなど、第 3 学年では、「未来に向かって」において、選択した筆記用具を効果的に使って書いた自分史を作るなど、実生活との関連を図った活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第 1 学年では、楷書や仮名の筆使いと字形を学習した後に、行書の筆脈を取り扱い、第 2 学年では、行書の点画の連続を学習した後に、行書と仮名の調和を取り扱い、第 3 学年では、行書の点画の変化と連続について学習した後に、自ら選択した課題を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○　内容の分量 総ページは、120 ページで、前回より約 58%増となっている。			
使用上の配慮等	○　「さくらさくら」や「平家物語」、「枕草子」など、国語科との関連を図った教材を掲載したり（全学年）、各学年の内容に関連した文字や書写の知識に関する内容をコラムの形で取り上げた「文字の歴史は残る」を掲載したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　学習の進め方について、「目標」、「学習の窓」、「学習を振り返る」の三段階に分けて学習内容や手順を示したり（全学年）、生徒が学習する際の参考にすることができるよう、巻末に「日常の書式」や「活用のヒント」を掲載したり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　生徒が学習の見通しをもつことができるよう、目次に「3 年間の目標」を掲載するとともに（全学年）、3 学年を合わせて一冊の合本としたり（全学年）、全ての生徒が学習しやすいような、明確に識別できる色の組合せにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道と関連のある教材は、「昭和 27 年の札幌市営観光バスの広告」など、2 箇所取り上げられている。 ○　学びに集中できるように、学習内容を焦点化することや、学習指示にマークをつけるなど、分かりやすく、使いやすいつくりになっている。 ○　小学校書写からの円滑な接続を図るために、「基礎編」を設けるとともに、高等学校芸術科書道との関連を図ったつくりになっている。			